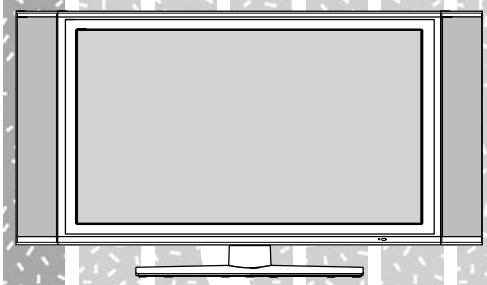
HITACHI

日立BSデジタルハイビジョンプラズマテレビ

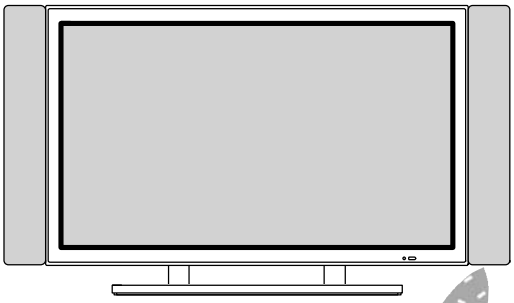
形名

W37-PDH2100
W42-PDH2100

取扱説明書



W37-PDH2100



W42-PDH2100

このたびは日立BSデジタルハイビジョンプラズマテレビをお求めいただき、まことにありがとうございました。

この説明書は、2モデルの説明書となっています。それぞれの機種特有の取り扱いについてはW37-PDH2100、W42-PDH2100と表記しています。仕様の相違については裏表紙をご覧ください。本文中のイラストは主として、W37-PDH2100で説明しています。

日立BSデジタルハイビジョンプラズマテレビは下記の構成になっています。

W37-PDH2100：プラズマテレビモニター（W37-PDH2100（M））、プラズマテレビチューナー（W37-PDH2100（A））とプラズマテレビスピーカーユニット（W37-PDH2100（SP））の3つで構成しております。

W42-PDH2100：プラズマテレビモニター（W42-PDH2100（M））、プラズマテレビチューナー（W42-PDH2100（A））とプラズマテレビスピーカーユニット（W42-PDH2100（SP））の3つで構成しております。

ご購入の際は、この3つが別々の梱包となっております。ご確認願います。

最初に 「使用上のご注意」をお読みください。本体の取扱いは、この「取扱説明書」をよくお読みになり、ご理解のうえ正しくご使用ください。
お読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

TruBassと(●)記号はSRS Labs, Inc.の商標です。
TruBass技術はSRS Labs, Inc.からのライセンスに基づき製品化されています。

特　長

表示画素1024×1024でデジタルハイビジョンが実現可能な高輝度高画質再現

37、42V型ALIS方式 プラズマディスプレイパネル

BSデジタル放送（1125i）高精細表示及び現行放送をハイビジョンと同じ走査線数で表示
緻密でチラつきの少ない高画質を実現した

アドバンスドプログレッシブ & 1024インターレース走査

リモコンをモニターに向けて外部接続機器を操作できる

メディアコントロール機能採用

BSデジタル放送の鮮やかな高画質映像と多機能サービスが楽しめる

BSデジタルハイビジョン チューナー内蔵

テレビ放送のゴースト妨害を低減

デジタルGR（ゴーストリダクション）回路

豊かで深みのある低音が楽しめる新技術

TruBass™ by SRS ※

※ TruBass™ by SRS はSRS Labs, Inc.の商標です。

チューナー部とモニター部を分離
壁掛け設置も可能

薄形軽量設置フリー

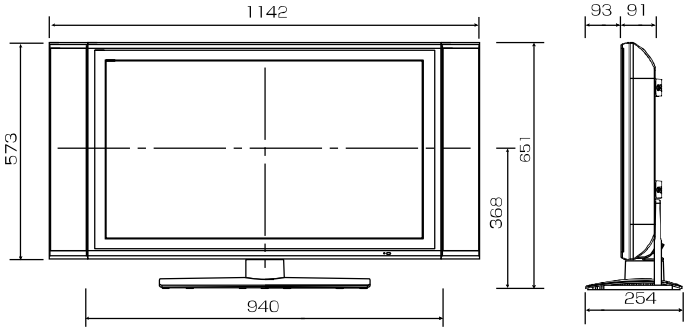
いつも見やすい位置から映像を楽しめる

スイーベル機構採用

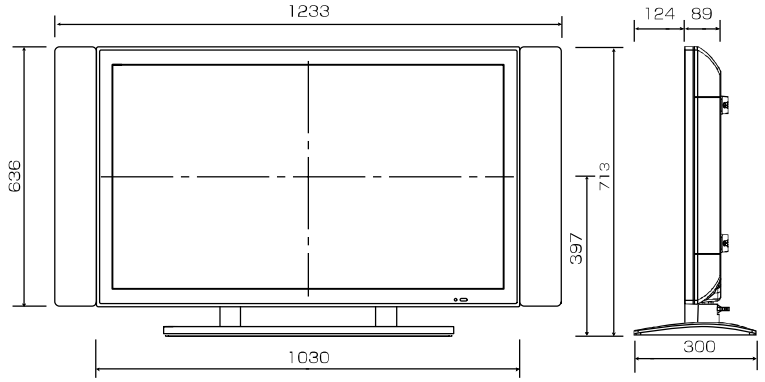
※W37-PDH2100のみ

モニター寸法図
（スピーカーシステムをモニターに取り付けとき）

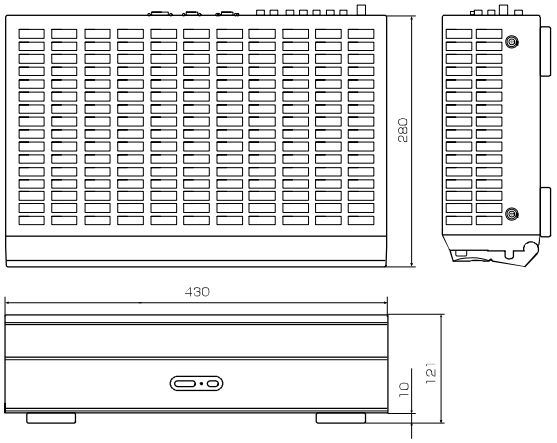
W37-PDH2100



W42-PDH2100



チューナー寸法図



商標について

- i.LINKとi.LINKロゴ "i." は、ソニー株式会社の商標です。
- D-VHSは、日本ビクター株式会社の登録商標です。

本書の見かた

この説明書は、ほとんどが1ページまたは2ページの見開きで見るようになっています。
（※違うパターンもありますが、基本的には同じ説明方法です。）

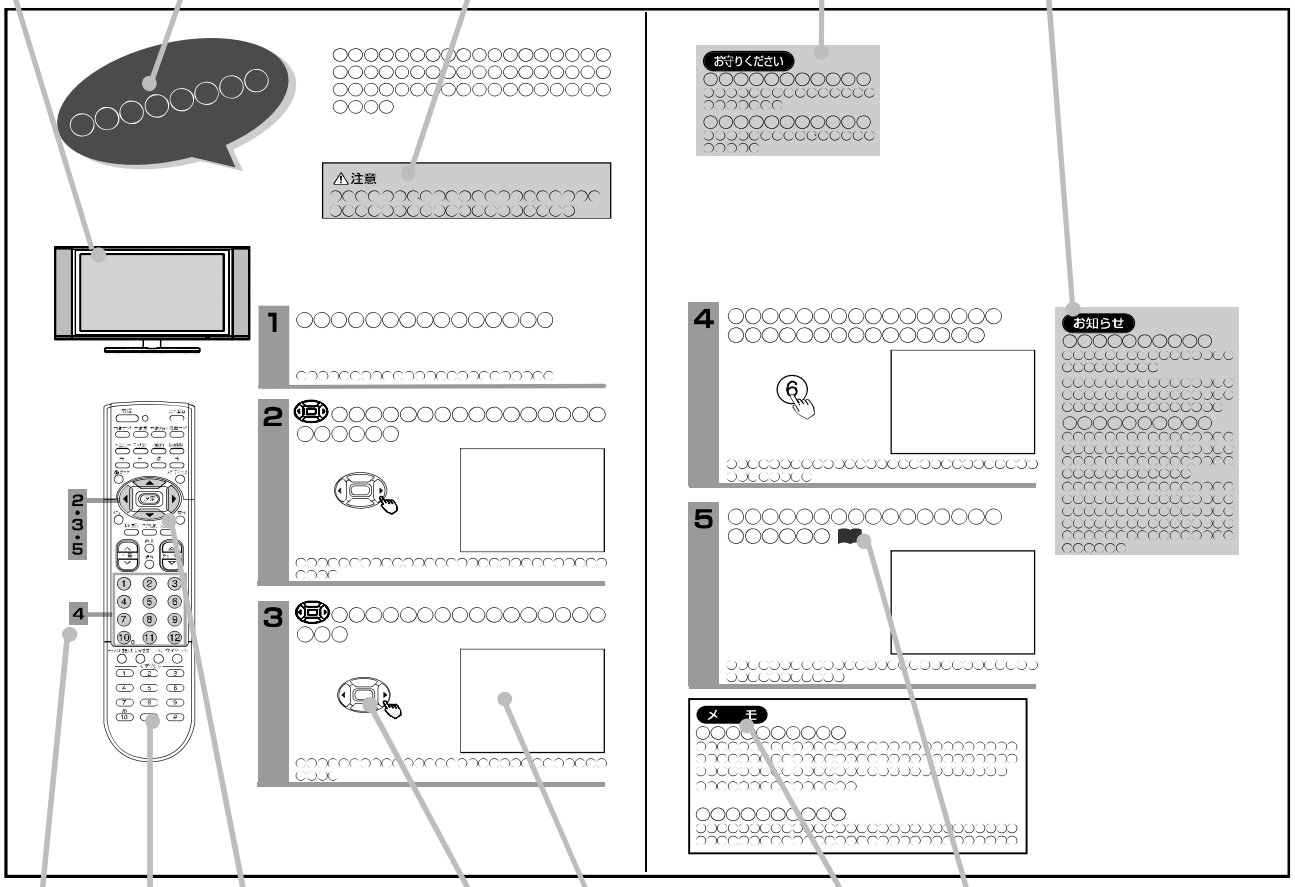
お守りください
操作上、守っていただきたいことを記載

⚠注意
安全上、守っていただきたいことを記載

お知らせ
操作上、知っておいていただきたいことを記載

タイトル

本体部



カーソルボタン

手順の説明

参照ページの記号

リモコン

カーソルボタンの記号

- 上下左右いずれかの操作
- 上下方向の操作
- 左右方向の操作

イラストからの引出番号は操作する順番です

メ　モ
知っていると便利な操作・解説

この説明書は、2モデルの説明書となっています。本文中、それぞれの機種特有の取り扱いについてはW37-PDH2100、W42-PDH2100と書いてあります。

もくじ

はじめに

特　長 …… 2
本書の見かた …… 3
使用上のご注意……6
安全上のご注意…… 6
お守りください …… 10
お知らせ、留意点 …… 11
お使いになる前の準備 …… 12
各部のなまえ …… 14
リモコン …… 14
モニター …… 15
チューナー前面 …… 17
チューナー後面 ……18
リモコンの取り扱い …… 19

基本の使いかた

テレビ放送（VHF/UHF）を楽しみたいとき… 20
BSデジタル放送を楽しみたいとき …… 22
べんり機能の使いかた …… 24
べんり機能の項目の選びかた …… 24
べんり機能で設定できる項目について …… 25
メニュー機能の使いかた …… 26
ビデオを見たいとき …… 27
ワイド機能を楽しみたいとき …… 28
ワイドモードの選びかた …… 28
オートワイドの効果 …… 29
その他のワイドモードについて …… 30
画面位置を調節したいとき …… 31
ゴースト妨害を低減したいとき …… 32
（ゴーストリダクション）
ゴースト妨害とは …… 32
ゴーストを低減したいとき …… 33
音を一時的に消したいとき …… 34
チャンネル番号などを知りたいとき … 35
画面表示 …… 35
音声内容の選びかた …… 36
二重音声放送のとき …… 36
ステレオ放送のとき …… 36
BSデジタル放送の音声信号を切り換えるとき …… 36
本体で操作したいとき …… 37

映像・音声の設定

映像の自動調整モードを選びたいとき … 38
映像モードの選びかた …… 38
映像設定をしたいとき …… 39
明るさ、黒レベルなどの設定 …… 39
さらにお好みの映像設定をしたいとき … 40
（ビデオ入力画質、オートコントラスト、3次元Y/C、ライン補間、フィルムシアター、黒補正、LTI、CTI）
音声設定をしたいとき …… 41
（音声モード、高音、低音、バランス、TruBass、サラウンド）
さらにお好みの音声設定をしたいとき … 42
（ステレオミュート、ミュート音量、ヘッドホン音量）

多機能の使いかた

マルチ画面を楽しみたいとき …… 44
マルチ画面モードについて …… 44
2画面を楽しみたいとき …… 44
4画面を楽しみたいとき …… 46
メディアチェックで選びたいとき …… 48
静止画にしたいとき …… 49
自動的に電源を切りたいとき …… 50
他の設定を変えたいとき …… 51
オートワイドの設定 ……51
メディアコントロール機能をご使用になるには ……52
スクリーンセーバーをご使用になるには ……53
外部機器を接続するときに便利な設定 … 54
モニター出力、入力検出、ゲームモード、ビデオパワーセーブの設定 … 54
ビデオ入力表示書換の設定 …… 56
コンポーネントの設定 …… 57
入力スキップの設定 …… 58
ビデオなどに録画するとき（BSch固定の設定）…… 59
MD（ミニディスク）などに録音するとき
（デジタル音声ーBS固定の設定）…… 60

BSデジタル放送の楽しみかた

BSデジタル放送をご覧になるには …… 61
画面表示の意味について …… 61
番組ナビ画面について …… 62
インフォメーション画面について …… 63
BSデジタル番組の楽しみかた …… 64
表示機能について …… 66
番組表を表示する …… 66
見ている番組のタイトルなどを表示する …… 68
番組の詳細内容を表示する …… 69
選局機能について …… 70
BSチャンネル一覧から選局する …… 70
裏番組一覧表から選局する …… 71
検索機能について …… 72
番組をジャンル別に検索する …… 72
有料番組について …… 74
有料番組（ペイ・パー・ビュー）を購入する …… 74
購入記録を確認する …… 75

予約する …… 76
番組を予約する …… 76
予約操作の流れ …… 76
予約済みの番組を選んだ場合 …… 78
予約できない場合 …… 79
予約がいっぱいの場合 …… 79
予約が重なっている場合 …… 79
予約の詳細設定 …… 80
予約後の注意点 …… 82
予約の優先順位について …… 83
連動予約とタイマー予約について …… 83
予約の事前設定 …… 84
予約の確認、変更、取消しをする …… 86
視聴制限を一時的に解除したいとき …… 87
視聴条件の設定 …… 88
暗証番号の登録と「視聴制限設定」画面の出しかた … 88
視聴可能年齢/一番組限度額 …… 90
暗証番号の変更/暗証番号の取消し …… 91
選局対象を指定したいとき …… 92
放送コンテンツについて …… 93
字幕や文字スーパーを見たいとき …… 93
BSデータ放送を見たいとき …… 94
同一チャンネルの複数コンテンツを切り換える …… 95
インフォメーションの確認 …… 96
電話発信記録を見る …… 96
メールを見る …… 97
接続機器の操作 …… 98
i.LINKについて …… 98
i.LINK対応機器を操作する …… 99
D-VHSビデオデッキを操作する …… 100
i.LINK対応機器の確認、設定 …… 102

設　置

モニター、チューナー、スピーカーユニットの接続 … 104
W37-PDH2100のとき …… 104
W42-PDH2100のとき …… 106
接続 …… 108
VHF/UHFアンテナ線の接続 …… 108
VHF/UHFアンテナが混合のとき …… 108
VHF/UHFどちらか一方のとき …… 108
VHF/UHFアンテナが独立のとき …… 108
BSが混合のとき …… 108
アンテナアダプターと同軸ケーブルの接続 …… 109
F形接栓(別売り)の接続 …… 109
UHFフィーダーの接続 …… 109
フェライトコアの使いかた …… 109
きれいな映像を楽しむために …… 109
アッテネーターについて …… 110
BSアンテナ線を接続するには …… 111
B-CASカードの挿入 …… 112
電話回線の接続 …… 113
ビデオコントローラーを接続する …… 114
ビデオを接続する …… 115
i.LINK対応のD-VHSビデオデッキとの接続 …… 116
デジタル音声入力端子付きオーディオ機器との接続 …… 117
メディアコントローラーを接続する …… 118
テレビ放送の受信設定について …… 120
チャンネルの合わせかた（地域番号） …… 120
地域番号一覧表 …… 122
チャンネルの合わせかた（マニュアル） …… 128
10キー方式にかえる場合 …… 130
微調する場合 …… 131
ゴースト妨害を低減したいとき（ゴーストリダクション） … 132
空きチャンネルを飛び越し選局したいとき …… 134
受信モードの設定について …… 135
BSデジタル放送の受信設定について … 136
設定画面の出しかた …… 136
電話設定 …… 138
地域設定 …… 140
BSチャンネルの設定 …… 142
BSアンテナの設定 …… 143
その他の設定 …… 144
（受信設定、項目のリセット、B-CASカードテスト）
ダウンロードについて …… 146
ダウンロード予約選択メール画面での設定方法 … 146
ダウンロード予約の自動/手動設定 …… 147
外部機器接続時の設定 …… 148
Irシステムの設定 …… 148
i.LINK待機の設定 …… 151
デジタル音声出力の設定 …… 152
アナログ接続設定 …… 153
他の外部機器と接続したいとき …… 154
接続できる機器 …… 154
ビデオカメラとの接続 …… 155
画面を見ながらテープ編集をするときの接続 …… 156
DVDプレーヤーとの接続 …… 157
ゲーム機との接続 …… 158
将来実用化予定のデジタル機器との接続 …… 159
オーディオ機器との接続 …… 160
CATVホームターミナルとの接続 …… 161
赤外線システムについて …… 162
赤外線システムの接続 …… 162
赤外線システムの使いかた …… 163
PC入力について …… 164
パソコンとの接続 …… 164
PC入力画面の映像設定をしたいとき …… 165
（明るさ、黒レベル、色温度、エンハンサー）
PC入力画面の位置などを自動調節したいとき … 166
PC入力画面の位置などをお好みに調節したいとき … 167
対応する信号について …… 168
推奨信号について …… 168
PC（RGB）入力端子のピン配列 …… 169
据え付けについて …… 170
転倒防止について …… 170
据え付けるときのご注意 …… 171

ご　参　考

パワーセービングシステム …… 172
故障かな？と思ったら …… 173
メッセージ表示一覧 …… 176
アイコン一覧 …… 177
メニュー階層 …… 178
保証とアフターサービス(必ずご覧ください。) …… 181
お客様ご相談窓口 …… 182
用語解説 …… 183
索　引 …… 184
仕　様 …… 裏表紙

使用上のご注意

ご使用のまえにこの「使用上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

絵表示について　製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり物的損害を発生する可能性があります。

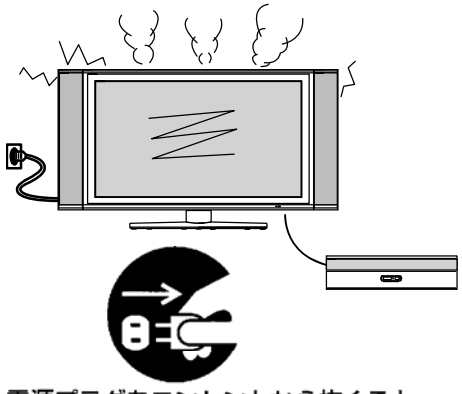
絵表示の意味

- 気をつけなければならない。「注意」を示します。
- 感電に気をつけなければならない。「感電注意」を示します。
- してはいけない。「禁止」を示します。
- 必ず行う。「強制」を示します。

安全上のご注意

⚠警告

■異常が発生したら、すぐに電源プラグを抜く



電源プラグをコンセントから抜くこと

異常、故障状態とは

- **煙が出ている、へんな臭いや音がする**
- **画が乱れる・映らない、音がでない**
- **本機の内部に異物(水、金属など)が入った**

など

異常、故障状態のまま使用すると火災、感電の原因となります。

すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。

●イラストはイメージであり、実際の商品とは形状が異なる場合があります。

設置をするとき

⚠警告

■不安定な場所に置かない

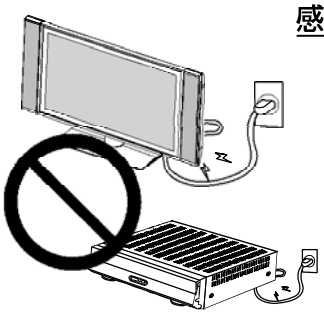
ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に置かない。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

■持ち運ぶときは衝撃を与えない、本機を落とさない

破損したまま使用すると、火災・感電・けがの原因となります。

- プラズマディスプレイパネルはガラスでできていますので、万一割れたりするとケガの原因となります。

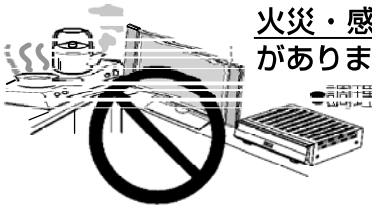
■電源コードを本機の下敷にしない



コードに傷がついて火災・感電の原因となります。

⚠注意

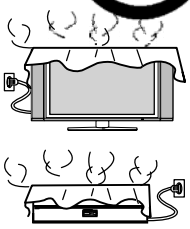
■湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気が当たる場所に置かない



火災・感電の原因となることがあります。

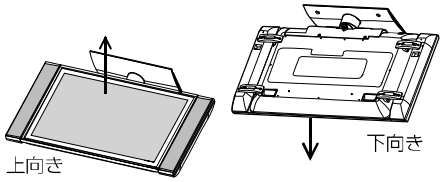
- 調理台や加湿器のそばなど

■通風孔をふさがない



火災の原因となることがあります。
通風孔を壁から10cm以上離して据えつけてください。（モニターを壁掛け設置する場合は除く）
特につぎのような使い方はしないでください。

- 本機をあお向けや横倒し、逆さまにする。
- 風通しの悪い狭い所に置く。
- じゅうたんや布団の上に置く。
- テーブルクロスなどを掛ける。



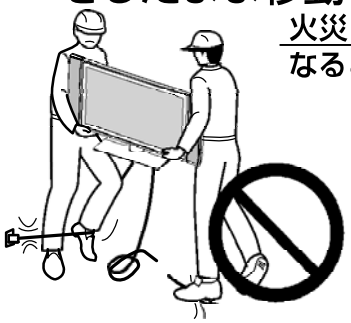
■キャスター（車）止めをする

テレビ台にキャスター（車）がついている場合は、キャスター止めをする。
テレビが動いたり、倒れたりするとけがの原因となることがあります。

■電源プラグをすぐに抜くことができるように本機を据え付ける

本機が異常や故障となったとき、電源プラグをコンセントに差し込んだままにしておくと火災・感電の原因となることがあります。

■電源プラグ、アンテナ線などの外部の接続線や転倒防止の処置をしたまま移動させない



火災・感電・けがの原因となることがあります。

■本機を移動させるときは、スピーカーシステムを持たない

スピーカーシステムの取り付け部が破損し、けがの原因となることがあります。

設置をするとき（つづき）

⚠注意

■転倒防止の処置を行う

モニターが倒れると、けがの原因となることがあります。

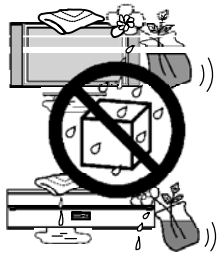
■アンテナ工事には技術と経験が必要ですので販売店にご相談ください

- 送配電線から離れた場所に設置する。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。
- 特にBS、CS放送受信用アンテナは強風の影響を受けやすいので堅固に取りつける。

使用するとき

⚠警告

■本機の上に花びんなどを置かない



水ぬれ禁止

本機の内部に水などが入ると火災・感電の原因となります。

万一、入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。

- 花びん、水槽、植木鉢、コップ、化粧品、薬品などを置かない。

■本機に水をこぼしたり、ぬらしたりしない

水ぬれ禁止

火災・感電の原因となります。

- 雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

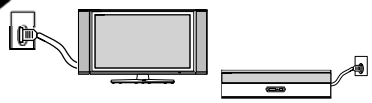
■風呂場やシャワー室で使用しない

風呂場やシャワー室での使用禁止

火災・感電の原因となります。

■指定の電源電圧で使用する

本体に表示された電源電圧以外で使用すると火災・感電の原因となります。

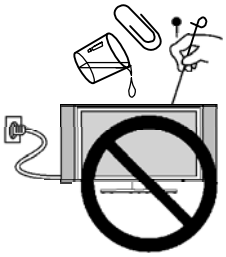


■雷が鳴り出したら、アンテナ線や本機には触れない

接触禁止

感電の原因となります。

■異物を入れない

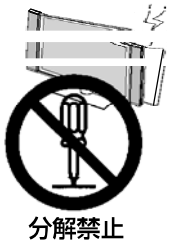


通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりすると、火災・感電の原因となります。

万一、入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。

特にお子様にはご注意ください。

■裏ぶたやカバーをはずさない、本機を改造しない



分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。

内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

■電源プラグの刃や周辺に付着した埃や金属類を取り除く

そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

お手入れは、電源プラグを抜いてから乾いた布で行ってください。

■電源コードを傷つけない

火災・感電の原因となります。

傷ついたら、電源プラグを抜いて販売店に交換をご依頼ください。

- 傷つける、破損させる、加工する、無理に曲げる、重いものをのせる、加熱する、引っ張るなどをしない。

使用するとき（つづき）

⚠警告

■衝撃を与えない

万一、本機を落したり、キャビネットを破損した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■光デジタル音声出力端子のカバーは幼児の手の届かないところに保管する

万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

光デジタル音声出力端子に取り付けてあるカバーを取り外した場合は、お子様がカバーを誤って飲むことがないようにしてください。

⚠注意

■電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと発熱し火災の原因となることがあります。

また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

■電源プラグは、ゆるみのあるコンセントに差し込まない

発熱して火災の原因となることがあります。

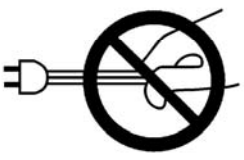
ゆるみのある場合は、販売店に交換をご依頼ください。

■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

■電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない



電源コードを引っ張ると電源コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

■本機に乗ったり、ぶら下がったりしない

倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。

特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■本機の上に重いものを置かない

倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

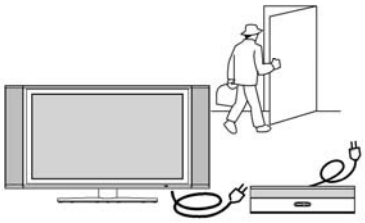
■間違った電池の使い方をしない

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

特に、次の使い方はしない。

- 本機で指定されていない電池の使用
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用
- 本機の極性表示（プラスとマイナスの向き）とは逆向きに電池を使用

■長期間ご使用にならないときは必ず電源プラグを抜く

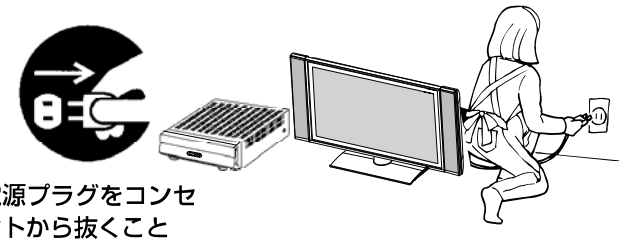


電源プラグをコンセントから抜くこと

お手入れするとき

⚠注意

■お手入れの際は、安全のため電源プラグを抜く



電源プラグをコンセントから抜くこと

■年に一度は内部の掃除を販売店にご相談ください

本機の内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。

特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部の掃除費用については販売店にご相談ください。

お守りください

■高温になるところに置かないでください

キャビネットや部品に悪い影響を与えますのでご注意ください。

●直射日光や熱器具の近くなど。

■お部屋は適度の明るさで

暗すぎる部屋は目を疲れさせるのでよくありません。

■長時間連続して画面を見ていると目が疲れます

時々、画面から離れて目を休めてください。

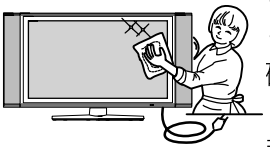
■適度な音量で

特に夜間での音量は小さい音でも通りやすいので、窓を閉めたりヘッドホンを利用したりして、隣り近所に対し十分の配慮をして、生活環境を守りましょう。

■本機および本機の破片、付属品を廃棄するときは

本機および本機の破片、付属品などを廃棄する際は、必ず、販売店にご相談ください。

■パネルのお手入れについて



本機のパネル表面は，柔らかい布（綿・ネル等）で軽く乾拭きしてください。

硬い布で拭いたり，強く擦ったりしますと、パネルの表面が傷付きますのでご注意ください。

指紋など油脂類の汚れがひどい場合は，水で薄めた中性洗剤に布をひたし絞ってふき取ってから、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

■キャビネットのお手入れについて

●キャビネットの表面をベンジン、シンナーなどでふいたり、殺虫剤などの揮発性のものをかけたりしないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触したままにしないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。

●化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

●キャビネットや操作パネル部分の汚れは、柔らかい布で軽くふき取ってください。汚れがひどいときには、水で薄めた中性洗剤に布をひたしよく絞ってからふき取り、乾いた布で仕上げてください。

特に、次の洗剤などは塗装を傷めますので使用しないでください。

・アルカリ性洗剤、アルコール系洗剤、みがき粉、粉石鹸、カーワックス類など

■搬送についてのご注意

●引越しや修理などで本機を運搬する場合は、本機用の梱包箱とクッション材をご使用ください。

お知らせ

■面欠点について

プラズマパネルは、精密度の高い技術で作られていますが、画面の一部に欠点や輝点が存在する場合があります。これは故障ではありません。

■残像について

静止画（画面表示、放送局側から送られる時刻表示など）を短時間（約1分程度）表示し、映像内容が変わったときに前の静止画が残像として見えることがありますが、自然に回復します。故障ではありません。

■パネル表面について

プラズマパネルは、パネルの内部で放電を起こすことにより映像を表示しています。そのため、パネルの表面温度が高くなる場合があります。
また、プラズマパネルは、微細加工したガラスです。パネルの前面には強化ガラス製のフィルターを取り付けていますが、ガラスが破損する恐れがありますので強い衝撃は与えないでください。

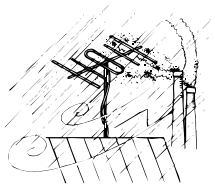
■輸送時について

本体を横倒しにして輸送した場合、パネルガラスが破損する、または面欠点が増加する可能性がありますので、横倒しでの輸送はしないでください。

■ご覧になる位置は

画面のたての長さの3～7倍を目安にした場所でご覧になれば、見やすくて疲れにくくなります。

■アンテナの点検・交換について



アンテナは風雨にさらされるため、美しい画像でお楽しみ頂くためにも点検・交換することをおすすめします。
特に、煤煙の多い所、潮風にさらされる所では、アンテナが早く傷みますので、映りが悪くなった場合は、販売店にご相談ください。

■ファンモーターについて

本機は、電源を入れるとチューナー部の温度を下げるためにファンモーターの動作音がしますが、故障ではありません。
また、電源オフ時でも、録画予約時やダウンロード実行時などには、自動的にファンモーターが作動します。

留意点

■付属の B-CAS（ビーキャス）カードは、BSデジタル放送を視聴していただくために、お客様へ貸与された大切なカードです。破損や紛失などの場合は、ただちにB-CAS（ビーキャス）「(株）ビーエス・コンディショナル アクセス システムズ」カスタマーセンターへご連絡ください。お客様の責任で破損、故障、紛失などが発生した場合は、再発行費用が請求されます。

■万一、本機の不具合により録画ができなかった場合の補償についてはご容赦ください。

■あなたがビデオデッキなどで録画、録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。

■本機から電話回線などを通じて通信を行なうと、通話料金無料のフリーダイヤルでないかぎり、電話料金はお客様の負担になります。

■長時間留守にされる場合や本機に異常が発生したとき以外は、チューナーの電源プラグをコンセントから抜いたままにしないでください。本機は電源オフ（モニター主電源オフ／スタンバイ／機能待機）状態でも、自動的にBSデジタル放送の情報を受信したり、視聴記録の送信を行なっています。

■この説明書に記載の画面イラストは、実際に表示される画面と異なる場合があります。チャンネル番号、チャンネル名、番組名などを含め、実際に表示される内容については画面でご確認ください。

■本機の受信周波数帯域（1032MHz～1336MHz）に相当する周波数を用いた携帯電話などの機器を、本機やアンテナケーブルの途中に接続している機器に近付けると、その影響で映像・音声などに不具合が生じる場合があります。それらの機器とは離してご使用ください。

お使いになる前の準備

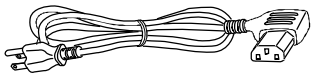
付属品をご確認ください。
万一不足しているものがあれば、販売店にご連絡ください。

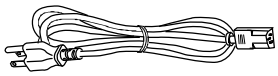
■取扱説明書（本書）および保証書は、よくお読みになって内容をご理解の上、いつでも確認できるところへ大切に保管してください。

モニターの付属品

保証書 ……1冊

フェライトコア② 105
（2個） 107

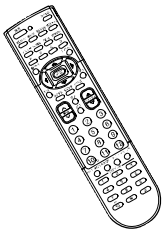

電源コード（黒色） 13
（W37-PDH2100）


電源コード（黒色） 13
（W42-PDH2100）

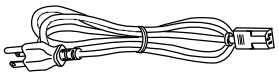
電源プラグアダプター 13

チューナーの付属品

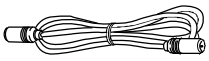
取扱説明書（本書）……1冊


リモコン送信機 14

単3形乾電池 19


電源コード（灰色） 13

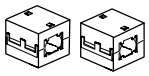
電源プラグアダプター 13

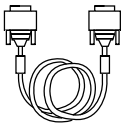

RFケーブル 108

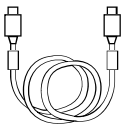
中継接栓 108

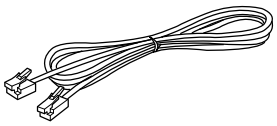
アンテナアダプター 109

B-CAS（ビーキャス）カード 112

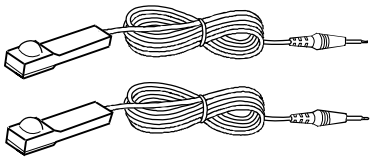

フェライトコア①
（2個） 109

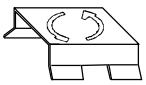

専用接続ケーブル1 13


専用接続ケーブル2 13


モジュラーケーブル 113

モジュラー分配器
（2分配用） 113

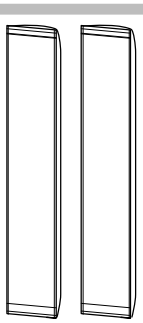

ビデオコントローラー（1個） 114
メディアコントローラー（1個） 118

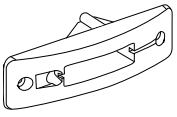

ワイヤレスホルダー 162

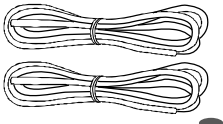
ワイヤレスクッション 162

メモ 付属品のビデオコントローラーとメディアコントローラーは同じものです。

スピーカーシステムの付属品


スピーカー 104
（L）（R） 106

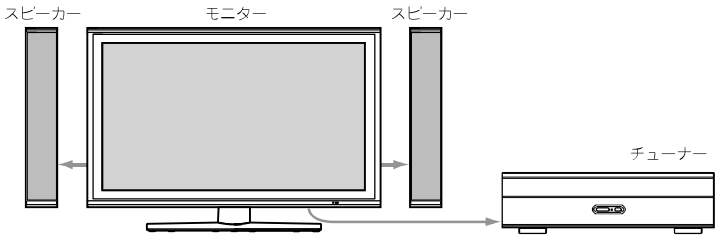

スピーカーホルダー 104
（4個） 106


スピーカー接続ケーブル（2本） 104 106

取付けネジ 104
（8本） 106

1 モニター、チューナー、スピーカーユニットの接続

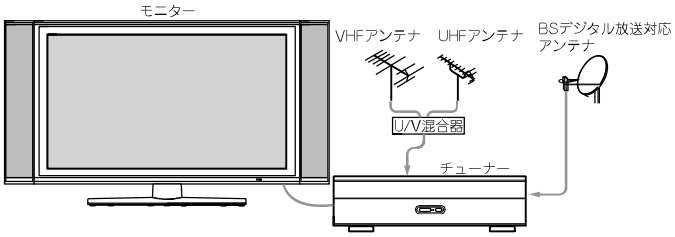
W37-PDH2100のときは 104 、W42-PDH2100のときは 106 をご覧ください。



2 アンテナ線をつなぐ 108 ～ 111

⚠ 注意

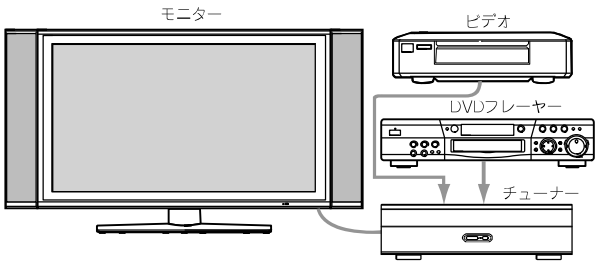
アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。



3 お手持ちの機器をつなぐ

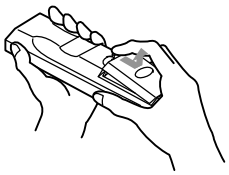
115 ～ 117 , 154 ～ 169

後面部の豊富な端子群をフルにご活用ください。



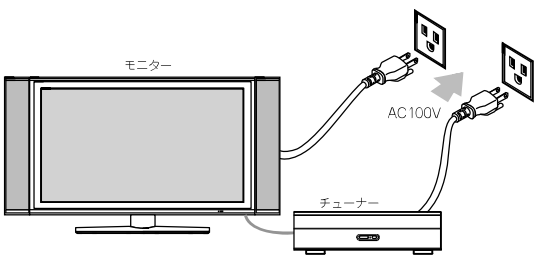
4 リモコンに乾電池を入れる 19

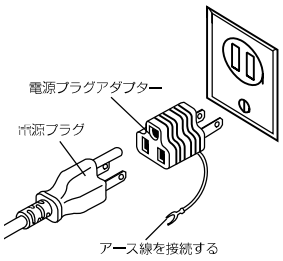
付属の単3形乾電池をリモコンに入れます。



5 電源プラグをコンセントに差し込む

2つ穴タイプコンセントを使用の場合は付属の電源プラグアダプターをご使用ください。
電源プラグアダプターをご使用の場合は、電波妨害防止のため、必ずアース線を接続してください。アース線は、必ず電源プラグを電源に接続する前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は必ず電源プラグを電源からとりはずして行ってください。





⚠ 警告

指定の電源電圧でご使用ください。表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

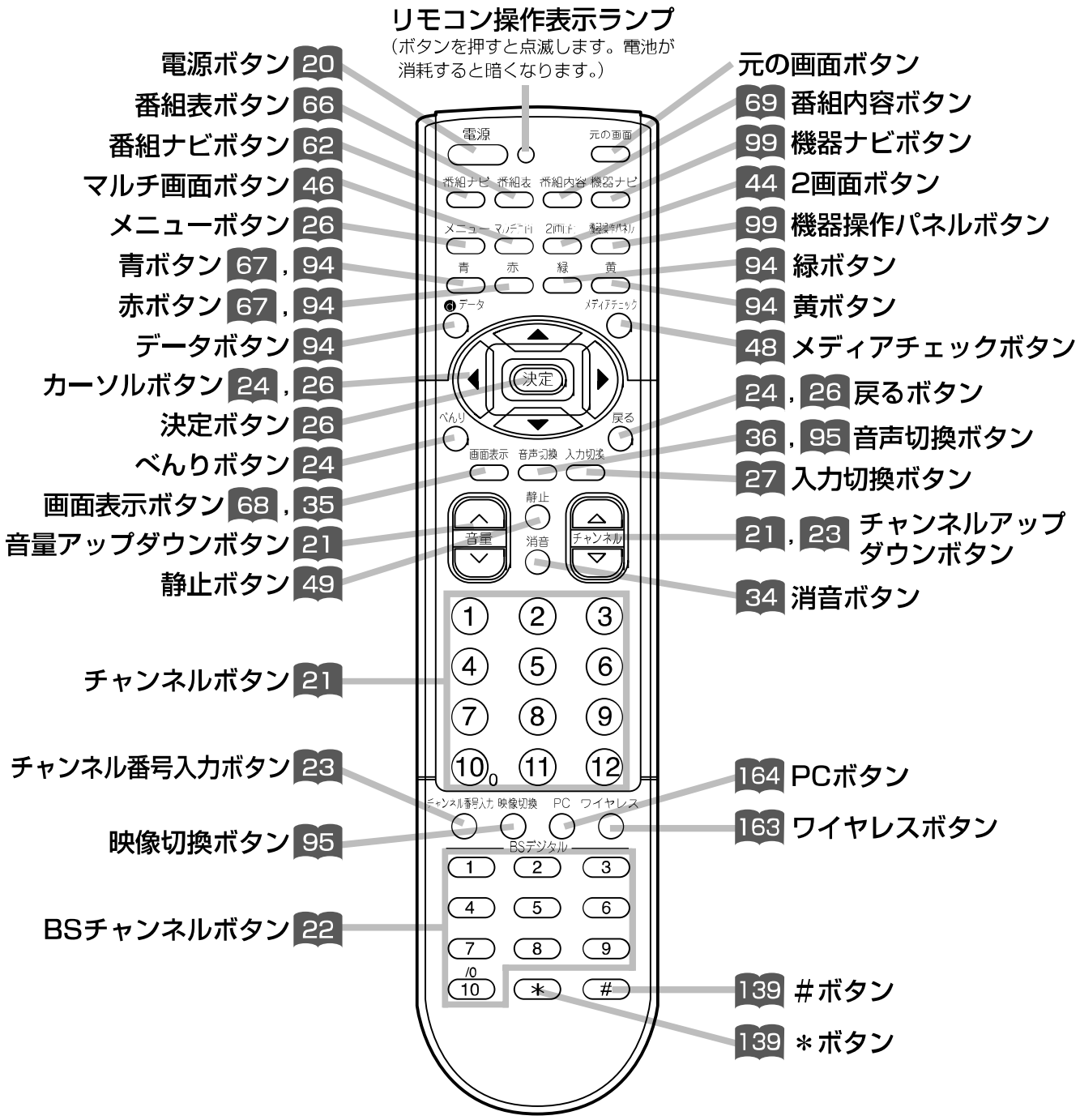
⚠ 注意

旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

各部のなまえ

リモコン

📖内の数字は、参照ページです。

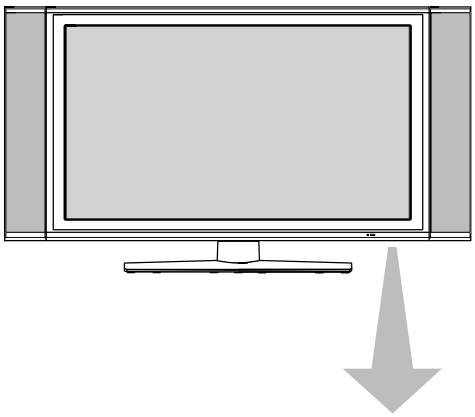


メ モ

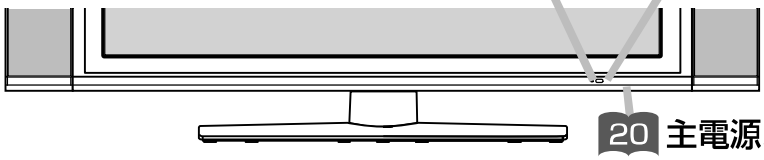
PC入力時のリモコンボタンについて
マルチ画面ボタン、2画面ボタン、静止ボタン、メディアチェックボタン、音声切換ボタンはPC入力時はご使用になれません。

元の画面ボタンについて
2画面やメニュー表示、番組表などの状態から、1画面に戻すのに使用できます。

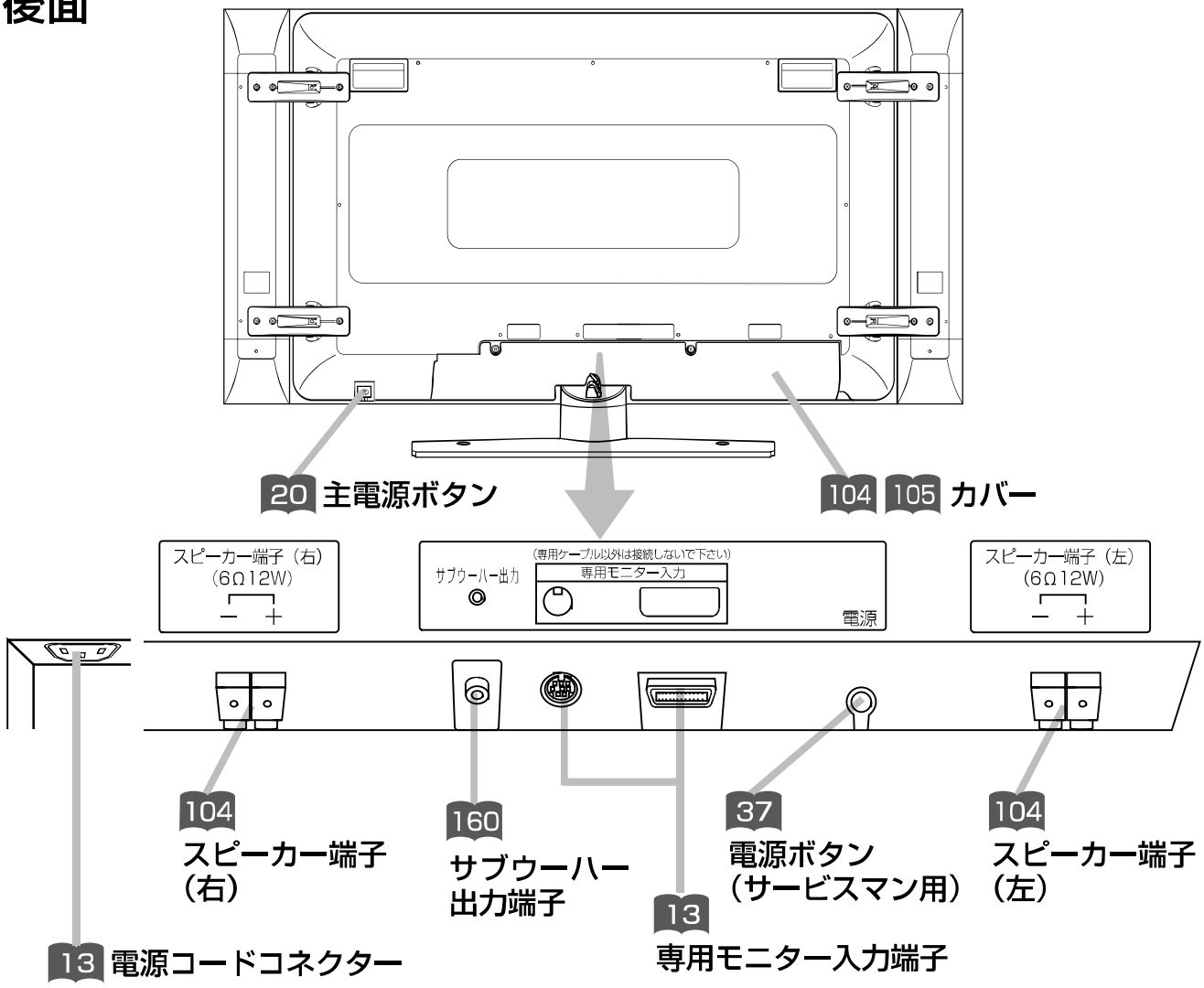
W37-PDH2100モニター



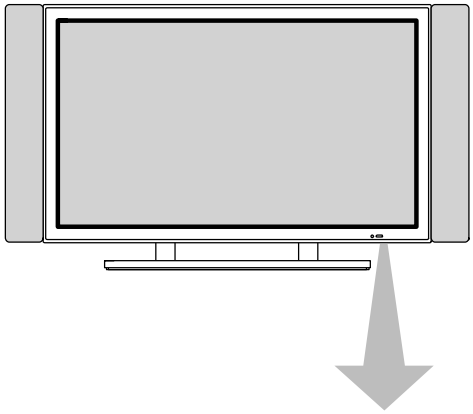
前面



後面

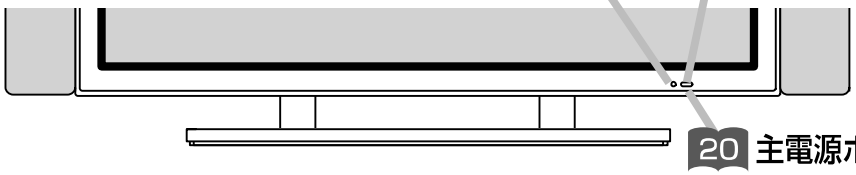


各部のなまえ（つづき）

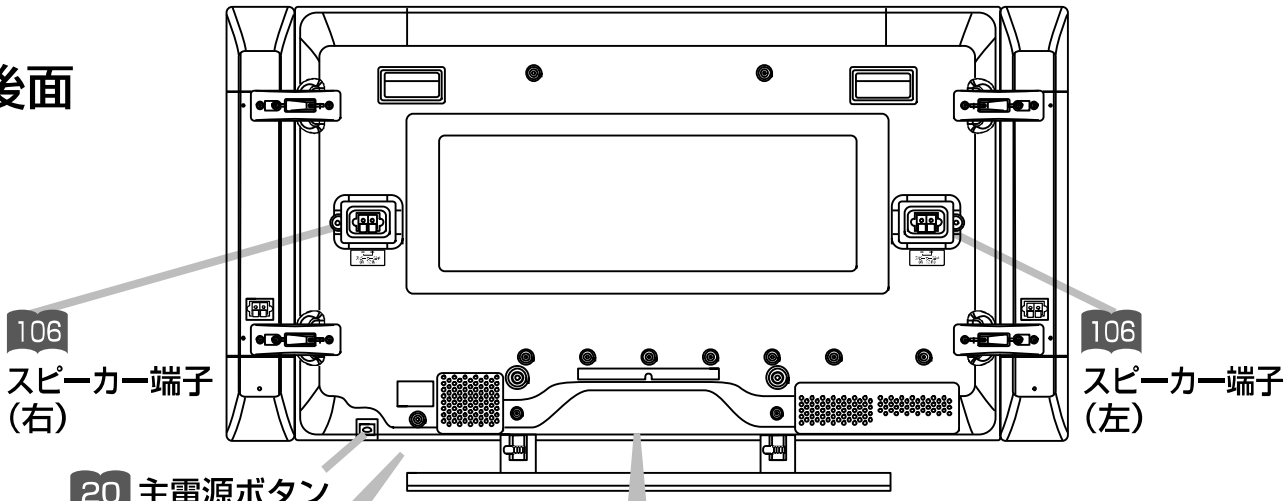


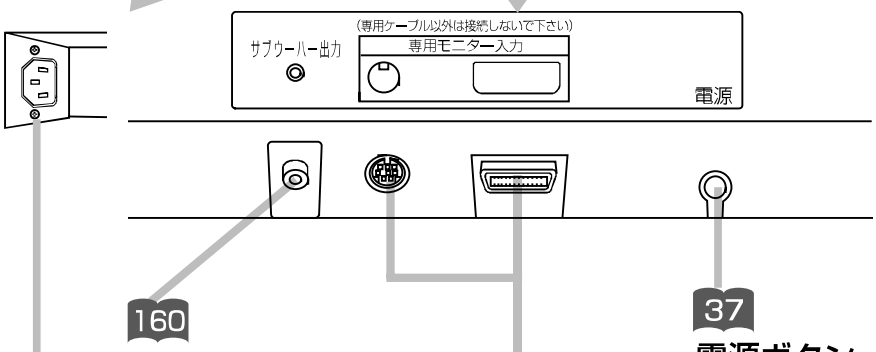
W42-PDH2100モニター

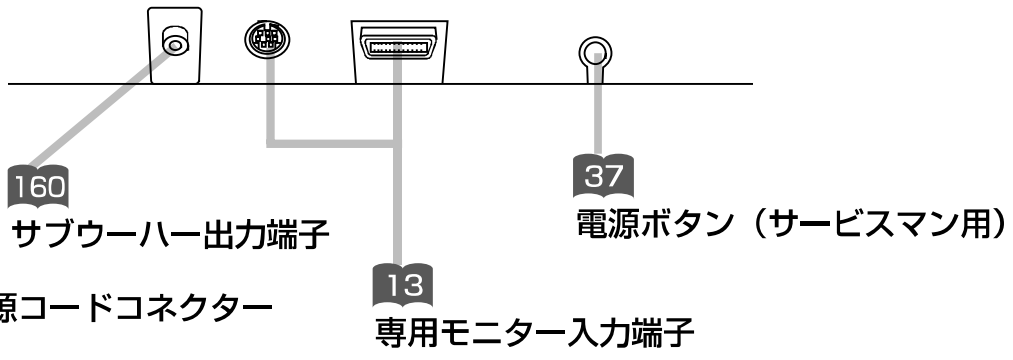
前面



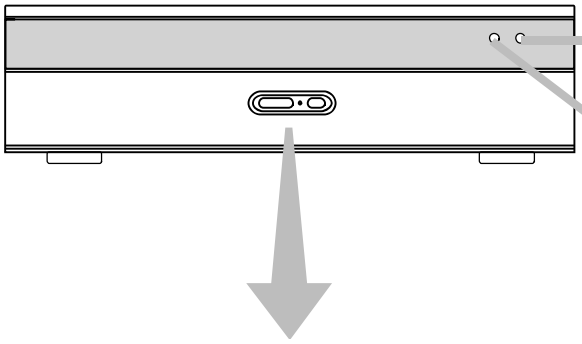
後面







チューナー前面

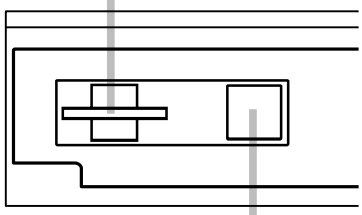


回線使用中ランプ
電話回線に接続したときに点灯します。

機能待機ランプ
リモコンで電源を「切」にしたとき、次の場合に点灯します。
・BSch固定「入」（録画予約）にしているとき 59 76
・i.LINK待機を「する」にしているとき 151
・ダウンロードしているとき 146

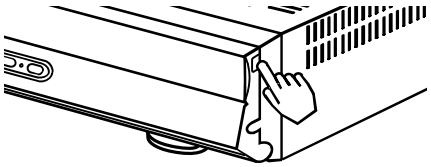
チューナーとびら内

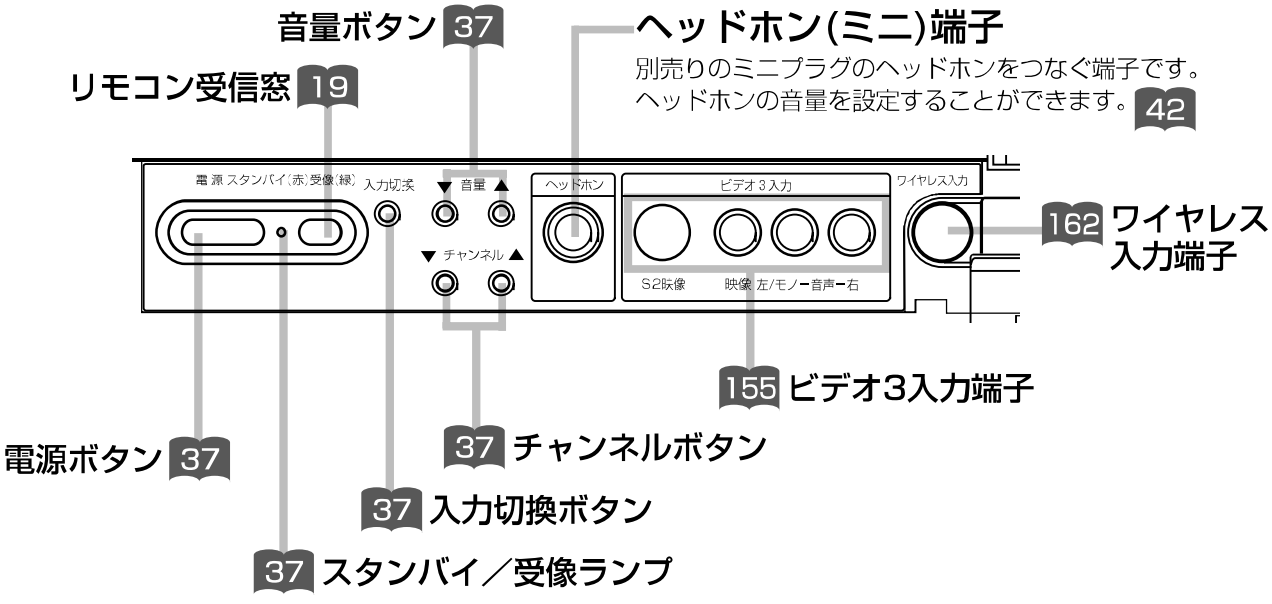
112 B-CASカード挿入口



カード挿入口（サービスマン用）
※このフタは異物の挿入を防止するためのものです。外さずにそのままご使用ください。

前面とびらの開けかた
とびらの横の部分に指を引っかけ、とびらを開けます。





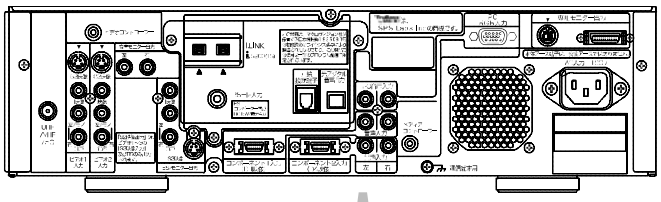
お知らせ

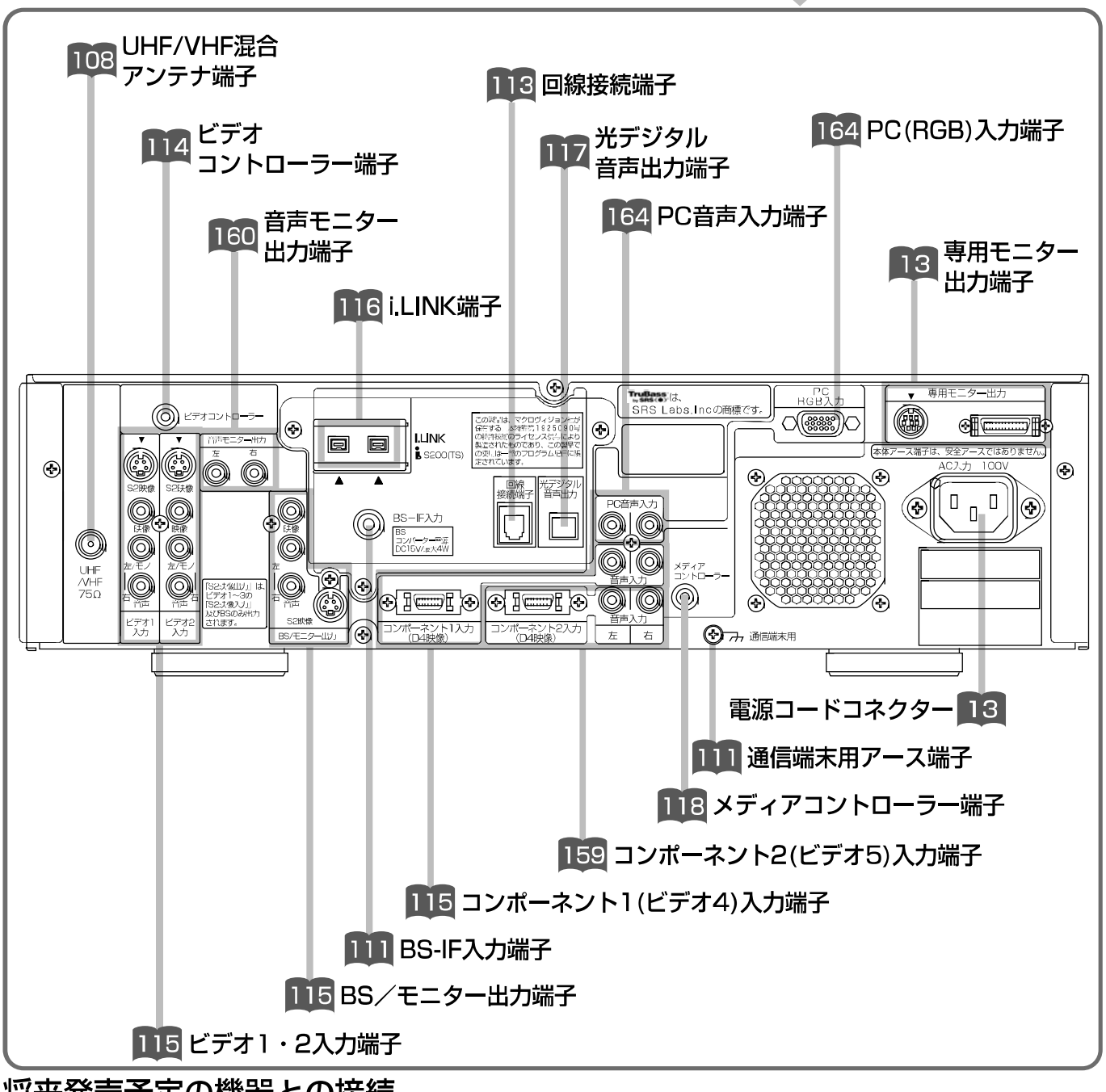
機能待機ランプについて
リモコンや本体の電源ボタンで電源を「切」にした場合、BSデジタルチューナーの電源処理のためにしばらく点灯します。

操作ができなくなった場合は
BSデジタル放送の受信異常などにより、本機の操作ができなくなった場合は、チューナー本体の電源ボタンを5秒以上押してください。

各部のなまえ（つづき）

チューナー後面





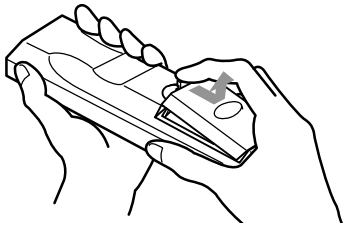
将来発売予定の機器との接続

テレビ関連機器の中には、現在開発中で数年後に実用化されると思われる機器がいくつかあり、システムアップが可能となります。使い方など、詳しくは各接続機器の取扱説明書をご覧ください。

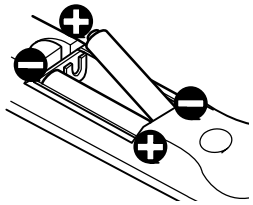
リモコンの取り扱い

⚠ 注意
乾電池の使用上のご注意
- ●本機で指定されていない電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがの原因となることがあります。
- ●電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、機器の表示どおり正しく入れてください。まちがえますと電池の破裂、液もれにより、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

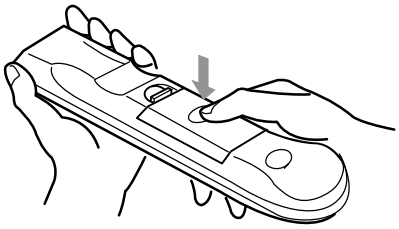
1 電池ぶたをはずす
電池ぶたのつまみを引き寄せながら、矢印の方向に引いて開けます。

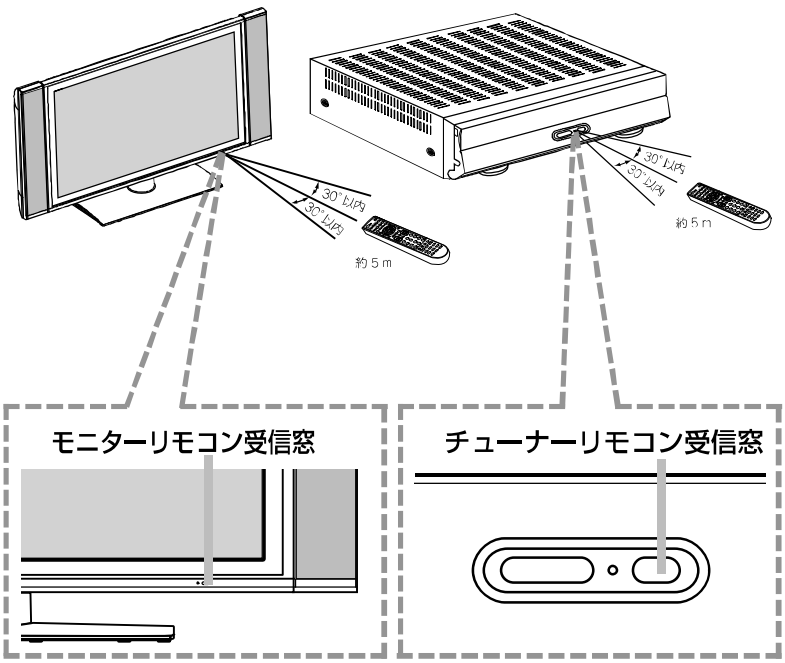


2 乾電池を入れる
付属の単3形乾電池を ⊕ 、⊖ の表示どおりに入れます。



3 電池ぶたを閉める
電池ぶたを矢印の方向に押して戻します。

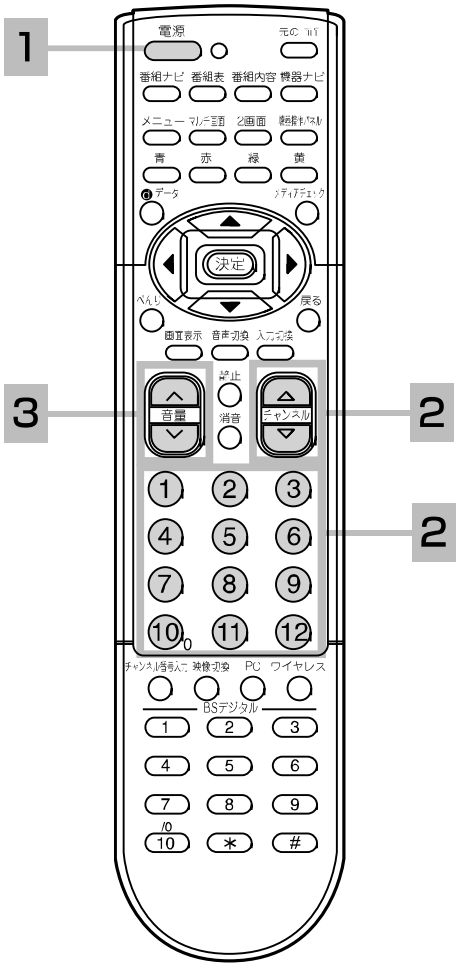




- ●リモコンは、モニターのリモコン受信窓またはチューナーのリモコン受信窓、どちらに向かっても操作することができます。
- ●リモコンは、それぞれのリモコン受信窓の正面から約5メートル、左30度、右30度の範囲内でお使いください。
- ●メディアコントローラー 118 を使用して外部機器を操作するときは、外部機器専用リモコンを使用して、モニターのリモコン受信窓に向けてボタンを押してください。
- ●メディアコントローラー 118 を使用しないで外部機器を操作するときは、外部機器専用リモコンを外部機器のリモコン受信窓に向けてボタンを押してください。

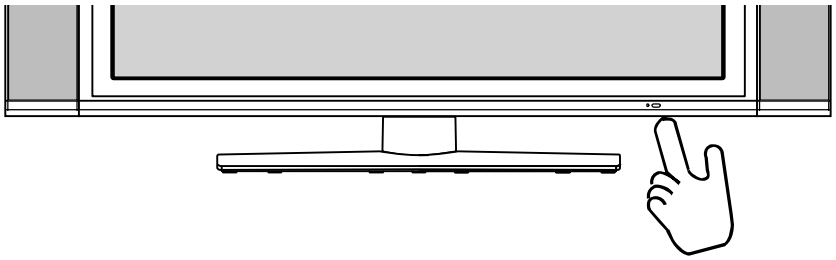
お守りください リモコンの使用上のご注意
- ●リモコンを落としたり、衝撃を与えないでください。
- ●リモコンに水をかけたり、ぬれたものの上に置かないでください。故障の原因になります。
- ●長時間ご使用にならない場合は、乾電池をリモコンから取り出しておいてください。
- ●リモコンの操作がしにくくなったら、乾電池を交換してください。
- ●リモコン受信窓に直射日光などの強い光が当たると動作しなくなることがあります。光が直接当たらないようにテレビの向きを変えてください。

テレビ放送(VHF/UHF)を楽しみたいとき



準備（主電源ボタン操作）

モニターのスタンバイ／受像ランプが消えているときは、リモコンでは電源が入りません。
まずモニターの主電源ボタンを押してください。スタンバイ／受像ランプが赤に点灯します。



1 電源ボタンを押す

モニターのスタンバイ／受像ランプが緑に点灯し、前に見ていたチャンネルが現れます。
電源を切るときは、もう一度押します。

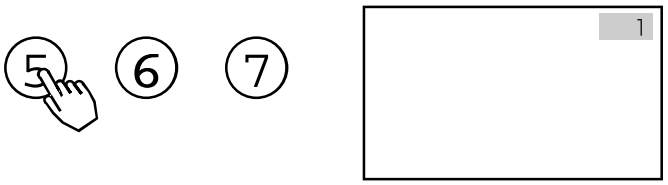
スタンバイ（赤）
受　像（緑）

お守りください

動作中に停電になったときのご注意
テレビが動作中に停電になった場合、停電の回復とともに電源が入ります。テレビから離れるときはモニターとチューナーの電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

2 チャンネルを選ぶ（1～12）

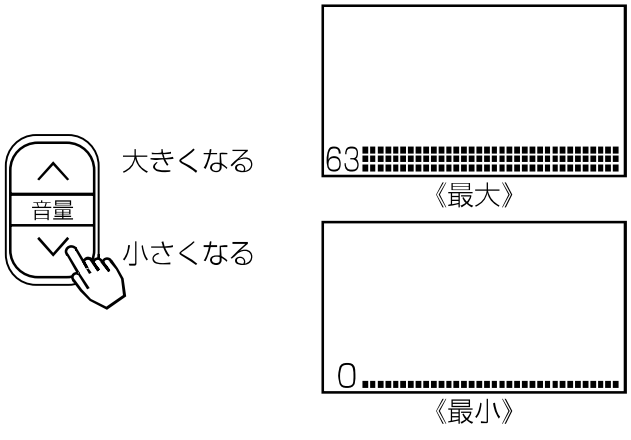
画面右上に選んだチャンネルが表示されます。
表示は約6秒で自動的に消えます。



チャンネルアップダウンボタン（チャンネル）を使ってチャンネルを順送りで選ぶこともできます。

3 音量を調節する

音量の大きさが数字と ■■■■■..... で画面に表示されます。



マルチ画面を見たいとき

リモコンの2画面とマルチ画面ボタンで、お好みのマルチ画面を見ることができます。44 46

メディアチェックで選びたいとき

テレビ放送、BSデジタル放送および外部入力映像を画面で選ぶことができます。48

メ モ

リモコンの操作は

スタンバイ/受像ランプが点灯しているときにのみ、リモコンの操作は可能です。
リモコンの電源ボタンを押して電源を切っておくと、次回から電源の「入・切」もリモコンでできます。

本体操作で電源を入れるには

スタンバイ/受像ランプが赤く点灯しているときに、チューナーの電源ボタンを押すと電源が入ります。37

スタンバイ／受像ランプについて

- スタンバイ／受像ランプの状態は、チューナーでも確認することができます。
- スタンバイ／受像ランプが橙色に点灯しているときは、パワーセービング状態になっています。55、172

①手順1で電源ボタンを押すとランプが赤に点灯し、電源が切れます。もう一度電源ボタンを押すと、ランプが緑に点灯し、電源が入ります。
②パワーセービング状態のときは、手順2のチャンネルを選んだり、入力切換ボタンを押すことにより電源を入れることもできます。

- モニターのスタンバイ／受像ランプが橙色に点滅しているときは電源プラグをコンセントから抜いたうえで、モニターとチューナーの専用接続ケーブル1,2が正しく接続されているか確認してください。13

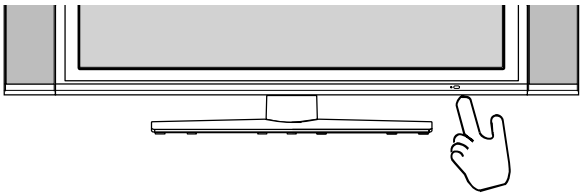
お買い上げ時のチャンネル設定

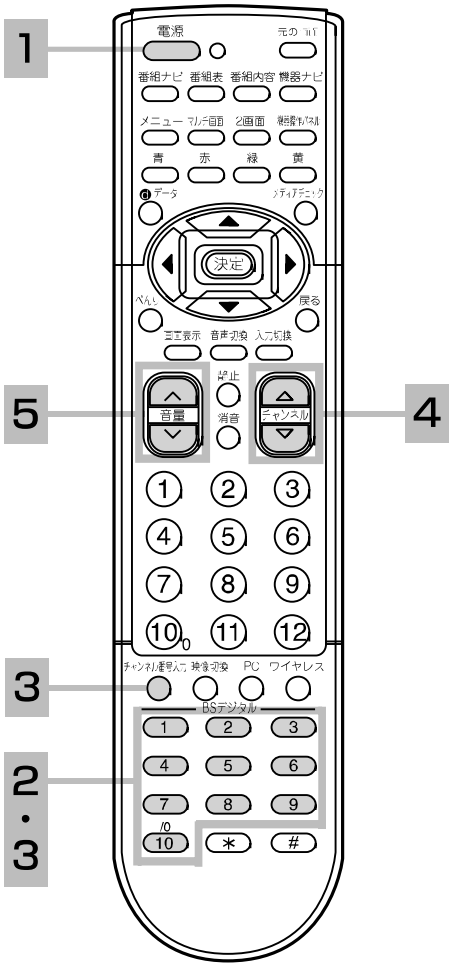
- お買い上げ時は、VHF1～12チャンネルの12局が設定されています。
  チャンネルの設定を変更することもできます。120、128
- 空きチャンネルの飛び越し選局134の設定をすると、空きチャンネルを飛び越して放送されているチャンネルをすばやく選局することができます。

BSデジタル放送を楽しみたいとき

準備（主電源ボタン操作）

モニターのスタンバイ／受像ランプが消えているときは、リモコンでは電源が入りません。
まずモニターの主電源ボタンを押してください。スタンバイ／受像ランプが赤に点灯します。





1 電源ボタンを押す

モニターのスタンバイ／受像ランプが緑に点灯し、前に見ていたチャンネルが現れます。
電源を切るときは、もう一度押します。

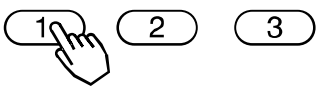
スタンバイ（赤）
受　像（緑）

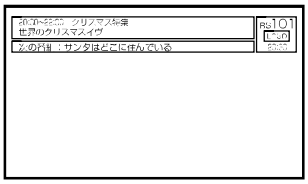
2 プリセット選局

本機では、あらかじめ 1 ～ /10 ボタンにチャンネルを設定（プリセット）しています。直接 1 ～ /10 ボタンを押すと、設定されているチャンネルを簡単に選局できます。

チャンネルを選ぶ

画面右上に選んだチャンネルが表示されます。表示は約6秒で自動的に消えます。





選んだ番組によって、以降の操作が異なります。
- 有料番組を選んだとき 74
- 視聴制限の対象になる番組を選んだとき 87

お買上げ時のプリセット設定について

お買上げ時のプリセット設定は、下表の通りです。
プリセットされているチャンネルは変更ができます。 142

1（101チャンネル）	NHK1 (NHK BS1)	6（161チャンネル）	BS-i
2（102チャンネル）	NHK2 (NHK BS2)	7（171チャンネル）	BSジャパン
3（103チャンネル）	NHKh (NHKハイビジョン)	8（181チャンネル）	BSフジ
4（141チャンネル）	BS日テレ	9（191チャンネル）	WOWOW
5（151チャンネル）	BS朝日	/10（200チャンネル）	スター・チャンネルBS

3 番号で直接選ぶ（番号入力選局）

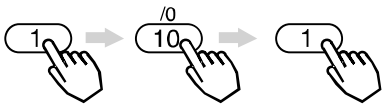
選局したいチャンネル番号があらかじめ分かっている場合は、3桁のチャンネル番号を入力して選局できます。

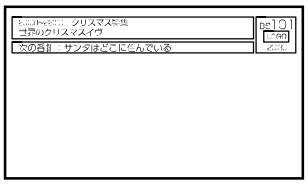
①チャンネル番号入力ボタンを押す

チャンネル番号入力画面が表示されます。

②ご覧になりたいチャンネル番号を入力する

例：チャンネル番号101を選局する場合





選んだ番組によって、以降の操作が異なります。

- ●有料番組を選んだとき 74
- ●視聴制限の対象になる番組を選んだとき 87

4 アップダウン選局

チャンネルアップダウンボタンを押す

チャンネルを順送りで選局することができます。

選んだ番組によって、以降の操作が異なります。

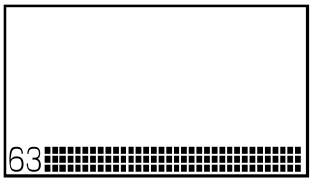
- ●有料番組を選んだとき 74
- ●視聴制限の対象になる番組を選んだとき 87

5 音量を調節する

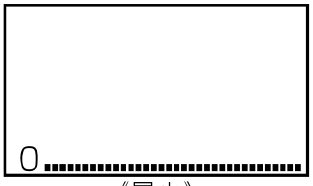
音量の大きさが数字と ▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪ で画面に表示されます。

大きくなる

小さくなる



《最大》



《最小》

メ モ

番号入力選局について

チャンネル番号を正しく入力しなかったときや約5秒以内につづきの番号を押さなかったときは、選局動作をしません。

アップダウン選局について

「BSデジタル設定」画面の選局対象の設定 92 により順送りするチャンネルが異なります。なお、選局対象の設定については 92 をご覧ください。

マルチ画面を見たいとき

リモコンの2画面とマルチ画面ボタンで、お好みのマルチ画面を見ることができます。ただし、異なるBSチャンネルを同時に2画面で見ることはできません。 44 46

メディアチェックで選びたいとき

テレビ放送、BSデジタル放送および外部入力映像を画面で選ぶことができます。 48